

B分科会 「地域に溶け込むには」



九州・沖縄地区生活支援コーディネーター活動研究大会

平成30年 8月28日

佐賀市保健福祉部 高齢福祉課 包括支援係

第2層生活支援コーディネーター 末岡雅代

今日皆さんにお話ししたいこと

- 成章校区の紹介
- 生活支援コーディネーター(SC)としての活動の状況
- 私の役目は
- 2年間の活動で大切だと感じたこと

地域で支えあい

自分らしくいきいきと生活できる社会の実現

佐賀市高齢者福祉計画 基本理念

～募る将来の不安を乗り越え、

「安心」と「希望」を抱いて生活できる超高齢社会を築く～

	神野	勸興	佐賀市
人口	11,603人	6,622人	233,542人
世帯数	5,602戸	3,405戸	99,872戸
65歳以上人口	2,858人	1,782人	63,445人
高齢化率	24.7%	26.8%	27.1%
在宅割合	88.1%	87.1%	88.0%
高齢者のみ世帯	62.5%	62.8%	50.0%
要支援要介護認定者数	2,858人(20.5%)	1,782人(19.6%)	12,776人(20.1%)
要支援認定率	7.9%	8.4%	7.2%
要介護認定率	19.9%	19.8%	20.0%
認定者のサービス 利用状況	(無)17.3% (有)82.7%	(無)17.7% (有)82.3%	(無)19.1% (有)80.9%
自治会数	13	22	663
自治公民館保有率	30.8%	31.8%	80.7%
サロン数(開催回数)	12(1/月)	4(1/月)	
老人会(加入率)	6(12.2%)	15(23.3%)	151(13.8%)
介護予防教室数(自主)	6カ所	5カ所	

- 佐賀市のほぼ中央に位置し、佐賀市役所、JR佐賀駅、佐賀市立図書館、佐賀県女性センター、バスセンターなどがあり、金融機関や大手企業の支店、また、佐賀鉄工所などの全国企業、さらに、新聞社、放送局、高等学校、専門学校、各種学校が数多くある。
- 佐賀市の中心地なので、県内では利便性のよい町といえる。
- 以前は中心商店街として賑わいを見せていたが、現在は、人口の移動や経済地図の変化により、その姿も大きく変化してきた。しかし依然として佐賀市あるいは佐賀県の中心地としての機能、役割は担っている。佐賀市の行政・文化・経済・産業の重要な地域である。



- 松原川、多布施川などきれいな小川も多く、ドン3の森など穏やかな自然環境も保たれている。小さな川が街中多いので、豪雨のときは浸水する箇所が多い。



- 駅周辺であるため、利便性を求めての転入者も多く都市化が進み、交通手段や情報通信手段の発展を背景に、地域限定ではなく、他の地区の方も利用できる団体(スポーツクラブやサークル等)も多くつくられ、地縁的なつながりが徐々に希薄化してきている。



～SCとしての活動の状況～

1・地域に出てみると……

行政の嫌われっぴいに驚愕 $\Sigma (!! \textcirclearrowleft \omega \textcirclearrowright !!)$

住民は行政の駒ではない(指示・命令、利用されてばかり)

市民感覚とズしている

公務員は税金で生活している

などなど



SCの声を届ける $\backslash (* \nabla *) /$

以前に

声を発せない $(\textcirclearrowleft ; \omega ; \textcirclearrowright)$

参加お断りの会議もあり……

どうしよう(涙・涙・涙)

2・出来ることからコツコツと

- ・参加できる会議から参加をして信頼関係を築こう
- ・会議だけではなく、できる限り行事にも参加しよう

自治活動は、ほぼ無償。では、

私も奉仕をしなくては・・・〇(´・ω・`)＝〇！！

- ・一緒に活動してみて、実態(既存団体の活動の範囲、足りないサービスとその必要度、住民の意識など)を知ろう



- ・地域の活動の中心「公民館」に行こう
公民館の館長や主事より情報収集(人間関係等の裏情報も・・・)

まちづくり協議会、校区社協、自治会、老人会、女性の会などの会議や活動も盛りだくさん。（多くの方が頑張っている。でも嫌々している人もいる。それに、同じ人とよく会うのだけど）

公民館は部屋の取り合い。（自主グループは皆楽しそう。資料にはないサークルもたくさん活動している。）

そして、サロンと呼ばれない「サロン」、支え合いと意識されない「支え合い」、暮らしのなかにある「介護予防」も地域の中には、たくさんある。

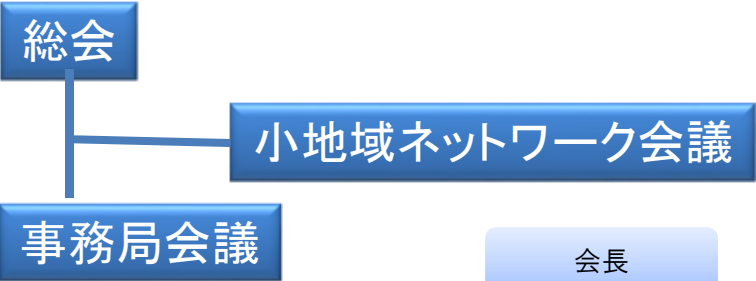
それに **第2層協議体のようなものも2つある**

校区社協（佐賀市社協）

まちづくり協議会（佐賀市役所地域振興部 協働推進課）

神野校区

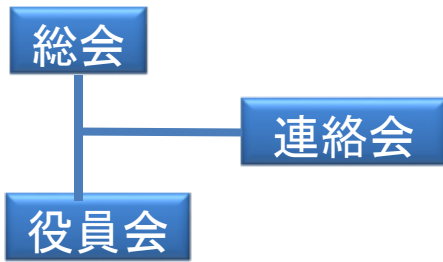
校区社協



- 市社協
- 地域包括支援センター

- 会長
- 事務局長
- 民児協
- 自治会
- 女性の会
- 子育てサロン
- ふれあいサロン
- 公民館
- 介護支援サポーター
- ボランティア神野
- 福寿会
- 食改

まちづくり協議会
(つなごろう！輪になろう！
支えあうまち神野)



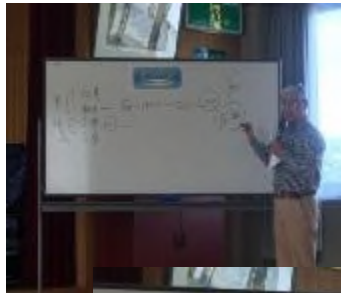
公民館



- 集い・交流の盛んな街づくり部会
- 集い・交流の盛んな街づくり部会
- 防犯・防災意識の高い街づくり部会
- 次の担い手が多い部会
- ご近所で支えあう街づくり部会
- 自治会
- 小・中学校高校長・小学校PTA
- 地域包括支援センター
- 民児協
- 社協
- 女性の会
- 福寿会
- 体協・消防団
- 食改
- 子育てサロン
- 交通安全協会
- 青少健

勸興校区

校区社協



- 市社協
- 地域包括支援センター

- 会長
- 事務局長
- 民児協
- 自治会
- 女性の会
- 老人会
- 子ども会育成会
- 公民館
- 花作り会
- 体協
- 青少健
- 食改

まちづくり協議会 (勸興皆一家)



公民館

- まちなみ部会
- まなざし部会
- ふれあい部会
- まちの駅部会
- すこやか部会
- 自治会
- 小・中学校・保育園
- 小学校PTA
- 民児協
- 社協
- 環境保健実践本部
- 老人会
- 体協・消防団
- 食改
- 神社角交番
- 交通安全協会
- 青少健
- 生活支援コーディネーター

3・街中では 住民なりに 住民ゆえに考えている

「駅前スーパーがなくなり不便になった」

との声はあるが



コンビニエンスストアが点在
駅構内に薬局、衣料店
通信販売の普及 生協などの宅配
他店の配送(有料)



ドラッグストア、コンビニエンスストアの
消費動向変動への対応も行なわれている。

知恵と工夫で代替え手段を考える



ドラッグストア

～私の役目は？～

地域は、子どもから高齢者までみんなで支えあうもの
先の長い持続できる活動を考えて

高齢者関係だけではなくさまざまな分野の方と関係を作っていく。

(九州電力、溝上薬局、振興組合、青年会議所、佐賀広告センター、JR九州ビルなど)

普及啓発・広報活動

利便性の良いまちなので危機意識に乏しい。



既存団体の会議で繰り返し発信
していく。

(制度説明、行政のデーター、
地誌的なデーター、地域資源
(フォーマル・インフォーマル) など)



市役所では

行政の情報、インターネットなどより、自分の校区の地域資源を把握

NPO、公益財団法人、施設、病院 など

他部署との連携

- ・協働推進課・・・まちづくり協議会
- ・商業振興課、工業振興課、など
SCの活動内容の説明を行い、地域資源などの情報提供依頼
- ・市社協CSWと共に(校区社協)
サロン活動の充実 研修旅行場所の検討
会議内容、資料内容の検討
- ・公民館
情報の共有、活動内容の検討など

自立支援型ケア会議

高齢者が地域で長く暮らすための地域資源の情報提供
地域課題の発見と課題解決に向けての検討
(既存団体への働きかけ、組織間のネットワーク形成の
ための調整、新規サービスの創出の検討)

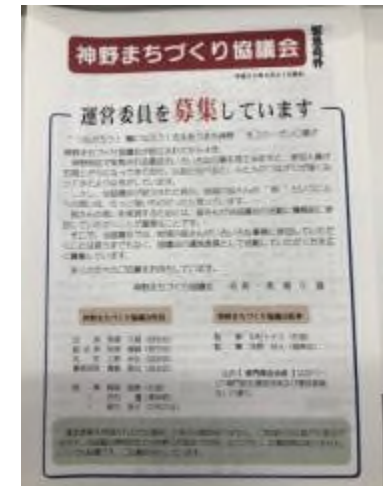


住民が自発的に動き出してきた

まちづくり協議会の組織、活動内容の見直し

(スタッフ募集の号外、研修旅行の選定、勉強会の検討、活動に対するアンケートなど)

サロン、老人会、介護予防教室の新規開設



各団体での勉強会の開催

連携強化の努力、協力依頼

校区社協への提言 (各町区からの代議員の席を作るなど)を行う。



～2年間(暗中模索)の活動で大切だと 感じたこと～

1・自己の行為の目的についての自覚を持つ

- ・私の担当校区は、佐賀市の中心地で利便性のよい地区である。
- ・駅周辺であるため、利便性を求めての転入者も多く都市化が進み、地縁的なつながりが徐々に希薄化してきてはいるが、地域コミュニティーも保ててはいる。
- ・協議体の形をした会議体が二つあり、月に1度協議会を開いている。
- ・住民が自発的に動き始めている。



既存団体の継続支援・活動の活性化

介護予防、生活支援の必要性の普及啓発・広報活動

「実績」の積み上げにとらわれすぎない

「〇〇を創る」「予定通りの回数の説明会を開催した」というような、外形的な「仕事の実績」を積み上げることに一生懸命になり、その仕事を通じて実現すべきことは何なのか、とか、何のためにその仕事はあるのか、といった目的意識の欠如を招かないようにする。

2・付かず離れずの距離感も大切にしながら 共に学び、共に歩む

地域コミュニティの弱体化は数十年に渡って生じたこと。

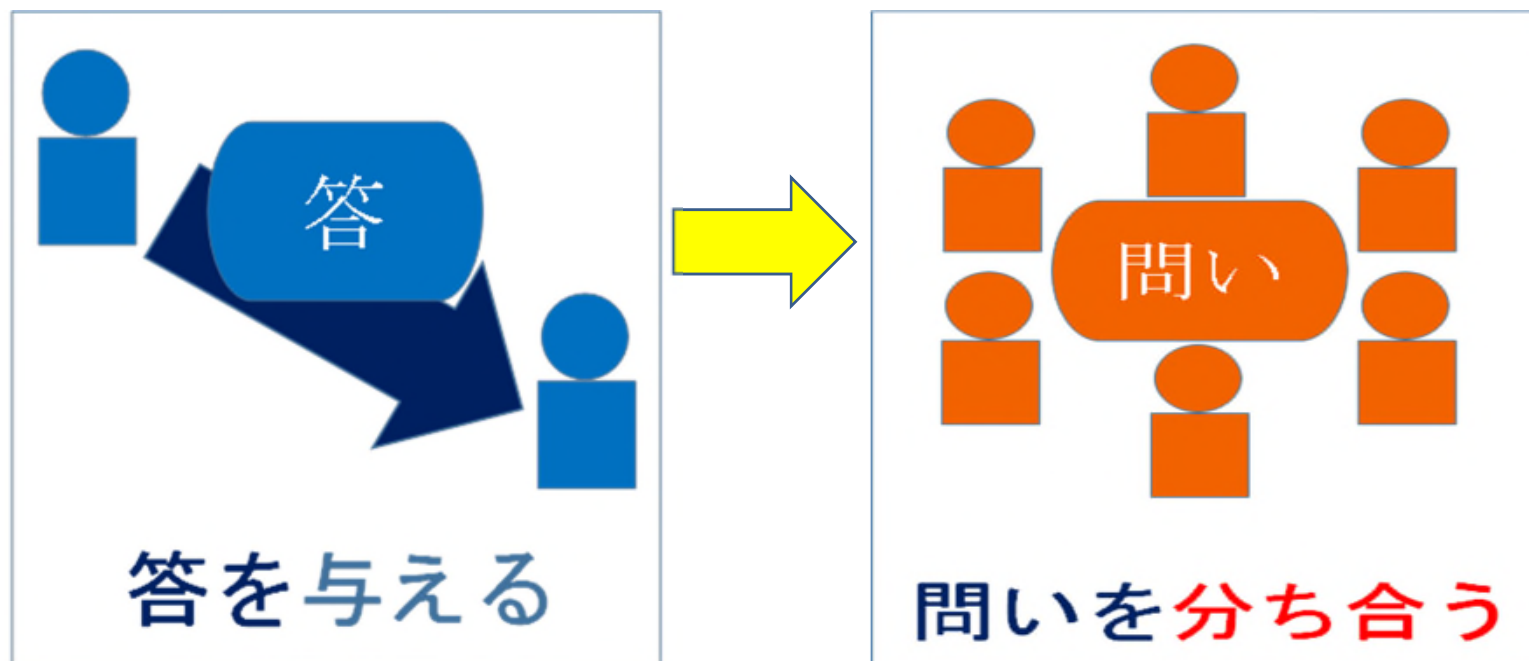
長く運動していない身体は、少しずつほぐしながら徐々に運動を高めていかなければ怪我をするように、地域やコミュニティは、少しずつ新しいやり方に慣れ住民がコツを習得し、底力をつけていく必要がある。しかし、活性化策に即効性や成果を期待しすぎたり、すぐに結果が出ないと思ってしまうことで、新しい動きを始めることも難しくなる。

中長期的にステップアップしていくイメージを持つ必要がある。

地域の歴史、活動が育まれてきた経過をしっかりと見つめる。

既存の自治組織・団体の活動をしっかりと認め、感謝し、敬意を払う。

3・予期できる課題への認識を、折に触れて共有しておく



株式会社Empublicゼミ資料「問いかけ力を磨こう」より引用

介護予防、生活支援の必要性の普及啓発・広報活動を行いながら、常に、「この地域は大丈夫ですか？」と発信続ける。

「答を提供する」のは一方的な関係になりがち。問いかけから「問いを分かち合う」ことで、力を持ち寄る協力関係を生み出すことができる。

4・予期できる課題については、解決策を提案できるように準備しておく

5・活動の持続性を考え、さまざまな分野の方との関係性を築いていく

6・自分の「強み」「個性」を自覚する

例えば、イベントの人集めをする際、私は、豊富な人的ネットワークを活用し、声掛けをしてもらうことで人を集めるが、他のSCは参加者のニーズを事前に把握しイベント内容がそれに合致していることをうまくPRし、人集めをするかもしれない。どちらか1つが正解というわけではない。大切なのは、そこに自分の個性があり、その個性が「強み」であることを自覚すること。

7・セルフモチベーションコントロールを上手に行う

小さな成功体験を積み重ねていく必要

成果が測定しづらく評価が難しい仕事のため、目標設定を行ってもモチベーションが上がらなかつたり、かえって低下してしまつたりする場合があります。地域住民からの「あなたが来てくれたら楽しい」「勉強になった」「やる気が出た」などの些細な言葉も立派な成功体験として受け入れ、評価する。

地域住民からの言葉が聞けない場合は、職場の人間にほめてもらう。

仕事のモチベーションを上げることにはつながらないかもしれないが・・・

自分なりのストレス解消法を持っておく。

多くのコーディネーターが、暗中模索で悩みを抱えたり不安や焦燥感にかられたりしていることを思い出す。

8・SCの仕事は 目指す地域像の実現に向けた トライの繰り返し

